

# オーケストラ・ フィルジツヒ 第14回演奏会

2019年3月10日(日)

開場 13:30 開演 14:00

福島テルサ FTホール

全席自由 一般 1,000円 高校生以下 800円  
※未就学児は無料 (母子室あります。)

芸術監督・指揮：  
**嶋津武仁**  
指揮：  
**高橋裕之**

シューベルト

交響曲第8番「未完成」ロ短調 D.759

ベートーヴェン

交響曲第3番「英雄」変ホ長調 Op.55

チケット取扱い ※12月15日(土)より販売開始

福島テルサ、とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)  
福島市音楽堂、あきたや楽器店、日野屋楽器店、中合福島、  
ダイユーエイトMAX福島店サービスカウンター

主催：オーケストラ・フィルジツヒ

後援：福島市、福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、  
ラジオ福島、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、  
テレビユー福島、ふくしまFM、福島コミュニティ放送FMポコ

協賛：株式会社パナナ

助成：(公財)福島県文化振興財団助成事業

お問い合わせ：pfirsich@pfirsich.jp

ウェブサイト：http://www.pfirsich.jp

ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

「フィルジッヒ」とはドイツ語で「桃」を意味します。団員にとってゆかりの地である福島の名産品を冠したこのオーケストラは、しばしば親しみを込めて「桃オケ」と呼ばれるまでになりました。第12回演奏会開催から約2年間の充電期間の中で、メンバーは、音楽を演奏することのみならず、そこから生まれる交流、地域への貢献についての想いを新たにしてきました。

今回のプログラムは、ベートーヴェンの「英雄」とシューベルトの「未完成」という、音楽史の上で重要な2つのシンフォニーを並べています。これは、昨年当楽団が、いわば「再起」するに当たって掲げた「クラシック音楽への〈原点〉を考える」というコンセプトを引き継いだものです。2つの交響曲を並べている点でも、昨年と同じカタチをとっています。それらを12回まで指揮を担当した高橋裕之がシューベルトを、昨年初めて当楽団を指揮した芸術監督嶋津武仁がベートーヴェンを指揮するというものです。師弟関係にある2人の指揮者が対峙しながら、それぞれの音楽観が衝突するのか、融合するのか、このコンサートでまた一つの挑戦を行うことになりました。そして作曲者が自らの作品の中で、一番の自信作としたベートーヴェンの「英雄」と、彼を最も尊敬し、その墓の隣に自らの埋葬場所を希望したシューベルトの「未完の名曲」とが向かい合うのもこのコンサートです。

## 芸術監督・指揮：嶋津武仁



静岡県に生まれる。作曲を甲斐説宗、指揮を伊藤栄一らに師事。1977年ドイツへ留学。ベルリン芸術大学にて作曲をイサン・ユンに、指揮法および総譜奏法をD.ポルフに師事。ゲバントハウス管弦楽団、DAAD、ISC M「世界音楽祭」や美二現代舞踊団、日本舞踊西川宗家、及び洋楽器、邦楽器奏者などより作品を委嘱。米ジョージア大学客員教授（00年）。ザールブリュッケン音楽祭（03年）、

ドレスデン音楽祭（05年）、プロツワフ音楽祭（06年）、北京国際電子音楽祭（08年）、台湾国際電子音楽祭（09年）、ミュージック・フロム・ジャパン音楽祭（12年、ニューヨーク）、国際現代音楽協会「世界音楽の日」（16年、韓国）などに入選作品。作品のLP、CDが日本をはじめ、アメリカ、ドイツ、メキシコ、フランス、スイス各国で出版。ブライトコップ&ヘルテル社、F.ホフマイスター社、等より楽譜出版。福島大学名誉教授。

## 指揮：高橋裕之



福島市出身。県立福島高校卒業。福島大学大学院音楽教育専修（作曲・指揮）修了。

大学在学中より竹澤嘉明氏の指導の下、声楽研究会学内オペラ公演を指揮してオペラ制作の魅力に触れる。その後、オペラ「乙和の椿」（東京文化会館）で副指揮者を務めたことをきっかけに、本格的に指揮の研鑽を積み始める。これまでに嶋津武仁、故K・レーデル、井上宏一、本多優之（指揮法）の各氏に師事。

また、国内・欧州においてマスタークラスを受講しディプロマを取得。2016年、スタラ・ザゴラ州立歌劇場（ブルガリア）にて「椿姫」を指揮、欧州にてオペラデビュー。また、昨年秋に行われた福島市政90周年記念事業オペラ「乙和の椿」の上演では、『音楽の友』誌上で好評を受けている。これまでにドレスデン音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・ジャポン、名古屋芸術大学コンサート等に出演するなど各地で精力的に活動をしている。現在、福島東稜高校芸術科教諭・福島県立医科大学非常勤講師。

## Orchester Pfirsich オーケストラ・フィルジッヒ

オーケストラ・フィルジッヒは、福島県に縁のある楽器奏者を中心に2003年に創立された非常設のオーケストラです。諸事情により恒常的なオーケストラ活動が困難な人、音楽教室の講師、各地の市民オーケストラに所属している人などにより構成され、音楽を愛する人の新たな交流の場となっています。そして限られた練習回数の中で、より質の高い演奏を行うことを目標に活動しています。

芸術監督に作曲家で福島大学教授の嶋津武仁氏、常任指揮者に福島市出身で新進気鋭の高橋裕之氏を迎え、2004年2月に初の演奏会を開催。以来、バロックから現代まで、交響曲からオペラまで、様々な時代・ジャンルの曲に取り組んでいます。2014年2月の第10回演奏会ではベートーヴェンの「第九」を、福島市内の高校生を中心として編成された合唱団コア・フィルジッヒと共演、大きな喝采を博しました。

楽団名となっている“フィルジッヒ (Pfirsich)”＝桃は福島の名産品です。その花が美しく咲き、香りが風に乗って届くように、また、その果実の豊かな味わいが人を喜ばせるように、当楽団の存在が、音楽を愛する全ての人々にとって歓迎されるようにとの願いが込められています。

